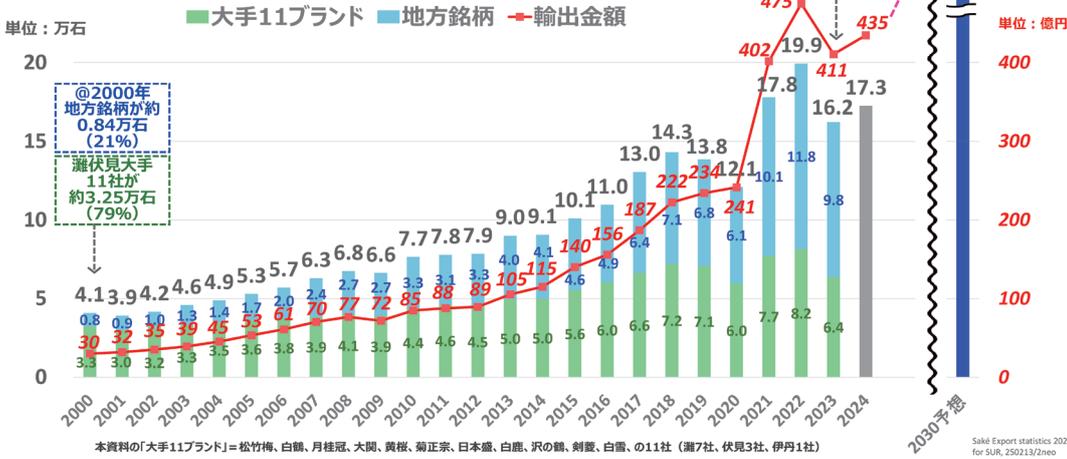


今回は「日本酒輸出の状況」です

A 清酒輸出の25年の推移：
「量」と「金額」、「大手」と「地酒」

Overview in 21 century / Saké export from Japan

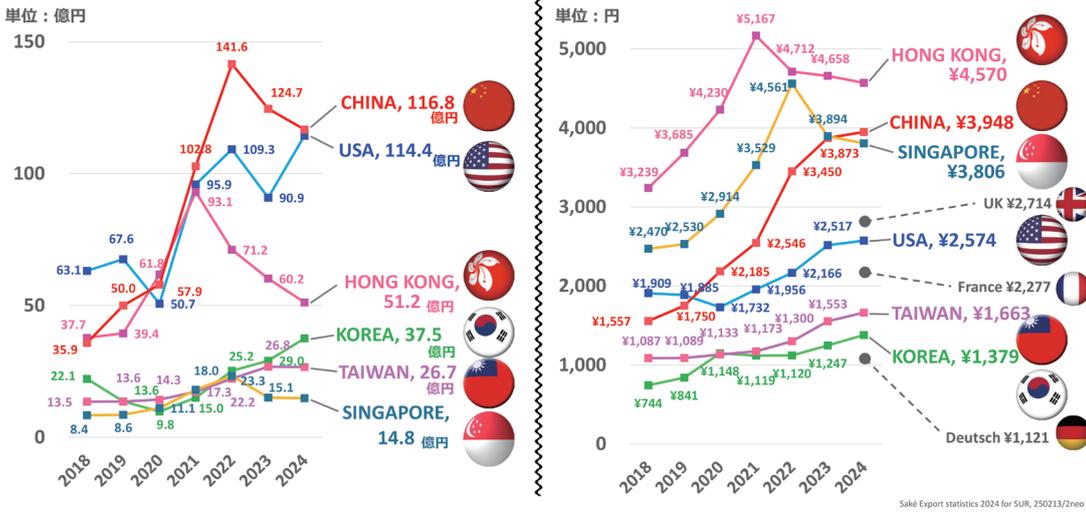


●スライド A 清酒輸出の25年：
「量と金額」、「大手と地酒」

「棒グラフ」は、清酒の輸出量です。21世紀に入って順調に拡大しましたが、2019年(韓国の日本製品不買運動)、2020年(コロナ)、2023年(福島原発処理水放出に伴う中国の減少)の3つの谷があります。緑は「灘・伏見大手11社」、青は「地酒(大手11社以外)」を示します。2000年には「8:2」だったものが2023年に「4:6」。地酒の伸長が全体をけん引しています。(2024年の大手・地酒の区分は未調査)赤の「折れ線グラフ」は輸出金額。平均単価が年々上がっている影響で、こちらは谷が1つ(2023年)です。右端には、2030年の予想を示しておきました。今後、米国関税や戦争激化など特殊な経済変動がなければ、金額で750±150億円、量で25±3万石になると予想します。この輸出量は2030年の清酒総生産量の12%程度と予想します。

B 清酒6大仕向け国の7年：「金額」(左)と「1.8L単価」(右)

Major countries of Saké export from Japan



●スライド B 6大仕向け国の
「金額」と「1.8L単価」

21世紀初め、清酒輸出の主要国はアメリカ・台湾・香港の「3か国」だったものが、2006年ごろから韓国が加わって「4か国」、2014年ごろから中国が加わって「5か国」、さらに2020年ごろからシンガポールが加わって「6か国」になっています。この6か国が2024年の清酒総輸出で、量の77%、金額の83%を占めます。左半分は「輸出金額」の7年の推移。個人的には中国以上に、香港の減少を懸念します。アメリカ、韓国は回復基調です。右半分は輸出金額と輸出量から算出した「1.8L単価」の推移です。香港とシンガポールは減少に転じています。中国は単価としては増加を続けています。右表には英・仏・独も書き込んでおきました。香港の4,570円とドイツの1,121円の差は4倍以上。仕向け国による極端な価格差は、日本酒グローバル化の潜在リスクと言えるでしょう。

C 清酒輸出、ウイスキー輸出、スパークリングワイン輸入の25年の推移

Saké & Whisky export from Japan vs Sparkling wine import to Japan



●スライド C 清酒輸出、ウイスキー輸出、スパークリングワイン輸入の金額比較

2024年の日本酒輸出435億円、日本のウイスキーの輸出437億円を合わせると872億円。一方、日本が輸入するスパークリングワインの輸入額は977億円です。すなわち、[日本酒輸出+ウイスキー輸出]の額より、[日本が輸入するスパークリングワイン]の額の方が大きい。「日本酒輸出」と「ウイスキー輸出」は全世界を相手に奮闘していますが、日本1国の消費する「スパークリングワイン輸入」にも及ばない、というのが現状の状態です。(text = t.kita)